○ヒガンバナの方言シロエ（前川文夫）　Fumio MAEKAWA: Etymological and ethnobotanical consideration of *Lycoris radiata* and *Eleocharis edulis*.

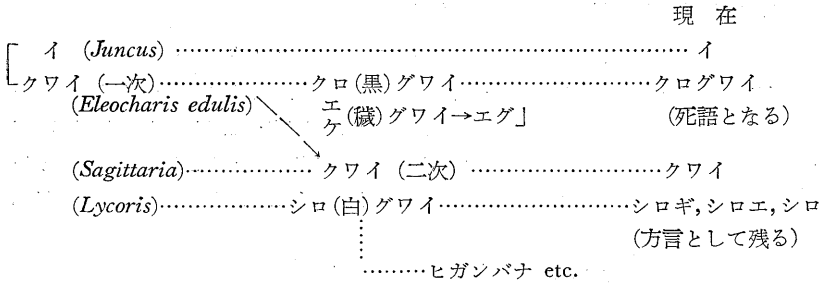
山口隆俊氏の彼岸花渡来記「自然科学と博物館 **26** (7-8: 31-36(1959) は興味深い論説で，ヒガンバナが支那から渡来したものであること〔これは既に私も別の観点から史前帰化植物として述べた(1943)〕及び稲の救荒用として入り，以来栽培されたものであるものからひろがつたことを主張されている。この後半の稲の不作時に備えてという意識的な導入であるというのは思い切つた著眼である。一例にすぎないが徳島県三好郡山城谷村の開墾地での実例などもあげられている。私は同氏のあげられたヒガンバナの方言をみてその語源的推理から面白い事実がわかると共に，それが過去に食用になつた俤をとどめていることを十分に証明できるのでここに述べておきたい。

話がとぶがクワイは今もかなり重要な蔬菜の一つだが，これは北支那から入つたものである。そして古くはいまクログワイとよばれるものがクワイであつて，これは普通のイ(*Juncus effusus*)に対して食用になる球茎が伴うイという意味であつた。それが *Sagittaria* の輸入に伴い，より適切な食用部分を備えるために *Sagittaria* が二次的にクワイの名を犯し，本来のクワイは止むなくクログワイ（皮が黒いから）となつた。この推移は牧野図鑑にのべられている。このように名が二次的に別ものに乗りかえ，古くからのものはやむなく別の称呼を得ることはしばしばあることで，私も前に本来のモモが新来のケモモに名をとられて，楊梅というモモの意味でヤマモモになり，ケモモは単にモモ(桃)ですむようになつたことを述べたことがある。

ところでヒガンバナの方言中にシロク，シロギ，シロエなどの名が残つている。最後のものなどはシレエに通じ，死霊となり，ソーレンバナ(葬礼)花につづくが，これは彼岸花という名からはじめて墓地にはえ，彼岸に咲き，すべてが仏教的に理解されるようになつてからの当てはめである。古くは恐らくシログワイであつたのではないか，即ち外の古い皮がはげればつるつるした白いクワイであるとみることは十分に出来る。そしてクログワイの在来品，青いクワイの渡来品と並んで食用になつたものであろう。それが何等かの理由で，恐らくは花の感じ，咲き方，生え方などから利用以外の点が強調されて，それに毒分のあることも手伝つて，利用面は饑饉のひどい時にようやく利用されるにとどまり，名もまたクワイの意味がなくなると共に後尾が脱落してシロエ系に改変されたものとみられる。この解釈はヒガンバナの過去における食用を考慮してはじめて鮮やかに成立する。

なお古語にクログワイをエグということが知られており，エグ摘むという言葉さえあるが，これは諸源がわからなかつた。シログワイの短縮形と平行した語形変化を考えるとこれは恐らく黒いことから来るエ(穢)グワイがもとで古代にすでに利用度がへつてエグまで縮少していたのではないか，或はエはケの意味で，これはハレ（晴）に対するケ

(穢)即ち前者は神にささげる物や日に対する言葉であるが，後者は人のつかうもの或は日常の物や日という意味で，常用したケグワイの音便的なずれかも知れない。後の考え方は窪田空穂翁からの示教である。記して感謝の意を表する。まとめると



のような名の変遷が過去の植物利用の変遷の跡をとどめているとみるのである。

(東京大学理学部植物学教室)

○ロツコウキバナコツクバネ（檜山庫三） On *Abelia serrata* var. *viridiramea* Makino

ロッコウキバナコツクバネは牧野先生が摂津国六甲山での採品に命名されたもので，これは新枝や葉柄が緑色で赤褐色とならず，また葉の表面が暗紫色をおびるようなことがない点で常品のコツクバネウツギ（キバナコツクバネ）から区別された。この植物の記載に用いられた材料と思われる標本が牧野標本館に収められている。点数は 9 点で，「摂津六甲山 V 1936」とあるだけで植物名の記入はないが，1 点ごとに「青」と書いた紙片が挿入されているので，これがアオコツクバネ（後出）であることに間違いはないと思う。この標本と同時に六甲山で採集されたコツクバネウツギの標本 13 点も一緒にあるが，これには「青」と書いた紙片は入つてない。両品を比較してみると今日では標本による枝色の識別は不能であつた。本種は葉や花の大小にかなりの変異が見られるためにコツクバネウツギを小形品に，キバナツクバネウツギを大形品に当てて区別もされているが，これには中間形が多く（ここに記する標本もまた中間形である），両形ははつきりしているというほどのものではない。さて，*Abelia serrata* Sieb. & Zucc. の原記載を見ると，これはロッコウキバナコツクバネであつて，ただ葉と花が少し小形なものであるにすぎないことに気づいた。したがつて学名の上からはコツクバネウツギの方が区別されねばならないから，これを forma *colorata* Hiyama として取扱いたい。forma *serrata* に対する和名としてはロッコウキバナコツクバネ（牧野日本植物図鑑 103. 1940）よりも更に古くアオコツクバネ（牧野 ex 山鳥吉五郎：六甲山，摩耶山植物